

夜空と海面を幻想的に彩った
「第20回雄島花火大会」

8月15日、第20回雄島花火大会が中浜海岸で開催されました。花火の打ち上げ前の午後6時30分から、八森中学校の生徒と先生による太鼓が披露されたほか、地元有志による「峰神太鼓」が、詰め掛けた人を魅了。打ち上げ時刻の午後8時に近づくと、押し寄せた大勢の観客の中には色とりどりの浴衣姿も見られ、夏祭りの雰囲気にも包まれていました。そして、轟音とともに始まった花火大会は、孤島の雄島や、海面、砂浜から打ち上げられる花火が作り出す幻想的な風景に、詰め掛けたたくさんのお見物人を魅了しました。



色とりどりの花火が打ち上げられました

恒久平和を願って
「戦没者追悼式」



ご冥福をお祈りします

8月17日、八峰町戦没者追悼式が文化ホールで行われ、遺族や町関係者ら約100人が参加しました。式典では、加藤町長が「世界ではテロや国家間、民族間の紛争などで尊い命を失う悲しい事件が絶えませんが、日本の平和と繁栄は英霊の犠牲の上に築かれていることを忘れずに、悲惨な過去を繰り返さないように努力することが私たちの使命です。」と式辞を述べました。続いて、追悼の言葉では、遺族を代表して腰山良悦さんが「戦争が終わり61年経ちますが、戦争の悲惨さを忠実に後世に伝えていくのが遺族の使命です。」と決意を新たにしていました。

暑さに負けず元気に過ごしてください
「海光苑・ブナの森納涼会」

8月30日、「海光苑・ブナの森納涼会」が海光苑の中庭で行われ、海光苑入所者や付近の住民ら多くの人で賑わいました。

この日は町商工会青年部が、焼き鳥やかき氷、かき氷などを無料で振る舞うと、あつという間に食材が無くなってしまうほどの盛況ぶりです。訪れた人たちはおいしそうに口に運んでいました。また、演芸会では、ボランティアグループ若菜会の踊りなどが披露されると、海光苑に入所しているお年寄りたちは、参加した家族らと一緒に手を叩いて喜んでいました。



たくさんの余興が披露されました

学習の成果を披露しました
八中祭・峰中祭を開催



クラスの団結を披露したパフォーマンス

八中祭と峰中祭が3日、それぞれ行われました。日頃の学習の成果と、この日のためにクラスごとに練習した合唱やパフォーマンスを発表し、団結を深めていきました。このうち峰浜中学校では、今回のテーマである「龍神邁進」の文字と龍の姿を画いた絵が掛けられたステージでクラス対抗のパフォーマンスや合唱が発表され、集まった父兄らから笑いと拍手を浴びていました。

八森中学校吹奏楽部定期演奏会
多彩なステージで
盛り上がる

八森中学校吹奏楽部の定期演奏会が19日、フアガスで開催され、3部構成と盛りだくさんの内容で、集った観客を魅了しました。

演奏には吹奏楽部以外にもOBや能代吹奏楽団などのメンバー数名が加わり、1部では金メダルを受賞した荒川静香選手の演技曲「トゥーランドット」などクラシックを演奏。2部では皆川教頭もメンバーとして参加しているバンド「奏和(かなな)」がミーシャの曲を歌い、顧問の山木先生と中西麻理子さんがアカペラでミュージカル曲を熱唱しました。第3部では、「演歌メドレー」や「翼をください」、「ルパン三世のテーマ」などを一気に演奏し、盛りだくさんのステージを締めくくりました。



生徒らの演奏に沢山の拍手がおくられました

まだまだ若いぞ
第11回白神山系
OB野球大会



はつらつとしたプレーを展開していました

9月3日、広域峰浜球場で第11回白神山系OB野球大会が開催され、町内外4チームが優勝を目指して、白熱した試合が展開されました。

この大会は、世界遺産白神山地周辺の野球チームの親睦とレベル向上を目指して毎年開催。出場資格は満39歳以上で、中には50歳を超える選手も出場しましたが、熟年の技でヒットや好フィールドインングを魅せていました。決勝戦は白滝倶楽部とあぶさんOBが対戦。熱戦の結果、見事に白滝倶楽部が2連覇を果たしました。

石川駒踊り・奴踊り
勇壮な駒と優雅な奴が
まちなを練り歩く

石川地区で13日、伝統芸能の「駒踊り」と「奴踊り」が行われました。地元の小学生30名が2ヶ月前から大人達の指導のもと練習にはげみ、お披露目となりました。

一行は神社や寺の境内など、町内4か所をまわり、勇壮な駒踊りと優雅な奴踊りを披露し、集まった人々から拍手を贈られていました。



優雅な奴踊り



勇壮な駒踊り

漁港が活気に満ちる
底引網漁業が解禁



たくさんの魚が水揚げされました

9月1日、日本海資源保護のために休漁していた沖合底引き網漁が2ヶ月ぶりに解禁されました。

八森漁港では、夜明け前に向かった漁船が午後6時前から続々と帰港。魚種ごとに仕分けされた荷箱を手際よく荷揚げし、荷さばき所に並べられました。水揚げされたのは、例年と同様に、カレイが中心でしたが、そのほかにもタイやアマダイ、ノドグロなども水揚げされていました。港は活気に満ち溢れていました。